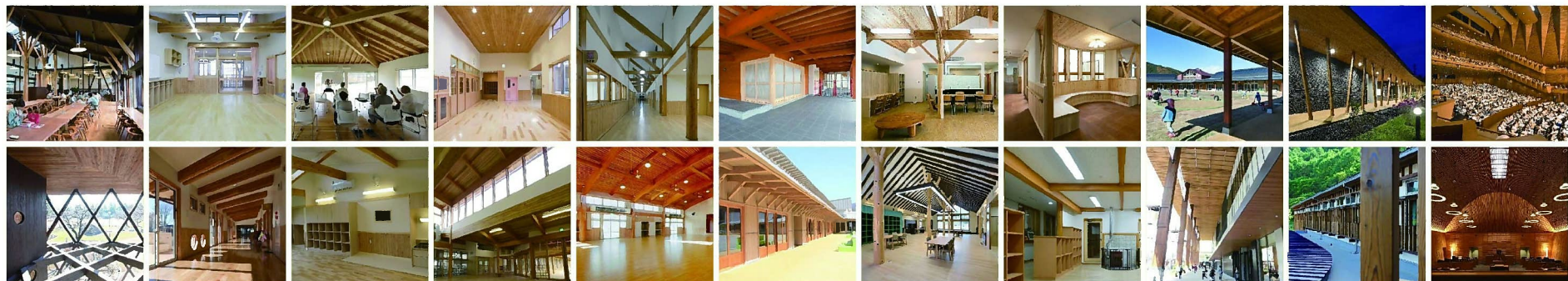




# “信州の木”建築賞

信州の優れた木造建築物等を表彰します

- 審査経過および講評 …… P1
- “信州の木”建築賞  
概要・応募作品一覧 …… P2
- 最優秀賞 …… P3~4
- 優秀賞 …… P5~8
- 応募作品 …… P9~27





## “信州の木”建築賞審査委員会 審査経過及び講評

「信州の木」建築賞は、単なる木造建築のカタログ集にとどまらず、木造化、木質化のお手本となるような建築物を選定するというものである。選定の視点は「木材利用・県産木材の活用、林業・木材産業への寄与等」、「木材の建築技術の継承や地場産業の発展に関すること」、「構造設計に関すること」、「防火性能に関すること」、「デザイン、景観に関すること」、「環境負荷の低減等の独自の取り組み、提案に関すること」の6点であり、それぞれの項目について評価することとした。

ただし、構造と防火についてはお手本ということもあり、法令等に合致していることはもちろんであるが、お手本とならないところがないか、という視点、いわゆるネガティブチェックを実施した。応募総数は22件であった。

**第一次審査は、**まず、事前にいただいた資料に目を通していたので、それぞれの案件について、審査委員がコメントし、意見交換した。その後、投票により上位6点を選定した。

なお、どれに投票するかは、審査委員それぞれの立場等からそれぞれの意志に基づいて実施するが、審査委員長としては木質化、木造化、製材、集成材、混構造など、選定する建築物にバリエーションを持たせたい、との私見、意向を事前に伝えさせていただいた。

**第二次審査は、**現地での建物確認と設計者による説明ののちに、第一次審査と同様に審査委員で意見交換を実施し、投票により最優秀作、優秀作をそれぞれ決定した。

**最優秀作は、**在来軸組構法による高齢者福祉施設で、評価項目のいずれについても、審査委員を納得させるに足る内容のものであり、全員一致で最優秀作を選定した。

つまり、建物、空間の構成はもちろんのこと、建設に至るまでの経緯、材料の調達、日本農林規格の製材品、いわゆるJAS材を確保するための努力、そしてエネルギー利用など、様々な視点から高評価を得た。

**優秀作は2点であり、**鉄筋コンクリートと集成材の混構造の農産物等直売施設と木質化の劇場・美術館を選定した。混構造建物の外周部の傾斜した柱の配し方や断面構成はきわめて繊細なもので、開放的な空間は魅力的である。そして、これを実現した背景には鉄筋コンクリート造の独立壁との組み合わせがある。木造の軽量化を良く表した好事例といえる。

木質化の劇場・美術館は木材の大規模建築への利用として、昨今様々な木質化がみられるなか、曲線的な回廊と木材の組み合わせ、さらに木材で仕上げられたホールは木材の良さを存分に発揮しているものとして選定された。



なお、そのほかにも優秀な作品があり、選考は議論を重ねることとなった。特に、選定された建築物が、いずれも比較的規模の大きなもので、木造建築としても普及が期待される建物規模、地域の担い手が地域材を使って建てる建築物の規模よりもやや大きいものと考えられる。

審査委員としては地域で普及が期待される規模の建築物を選びたかったのであるが、前述したネガティブチェックで選に漏れることになったのは残念であった。

このネガティブチェックでたびたび議論されたのは、地域材利用時のJAS材の問題である。法20条の第四号建築を超える規模であっても、施行令第三章第三節を満足し、無等級材を使って構造計算をすれば合法的に木造建築物の建設が可能である。

しかし、近年、強度的に信頼できる材料を用いて建築物を建てるのが推奨されており、国土交通省官庁営繕部「木造計画・設計基準及び同資料」ではJAS材の利用を推奨している。

また、何らかの理由でJAS材の利用ができない場合であっても、みなしJAS的な方法も示している。

本建築賞は、前述したとおり「お手本」となる建築物を選ぶことであり、JAS材、あるいはみなしJAS的な管理を実施したものを選ぶこととした。

なお、本課題は、今後の地域材の利用拡大、普及を考えていくうえで避けては通れない。JAS工場の新設、あるいはみなしJASとしての、例えば、信州認証木材製品、との関連付けなど、今後、行政的な施策としての対応が望まれるところである。

日常業務でお忙しい中、応募いただいた各位に感謝の意を表したい。

平成28年11月21日

審査委員長	五十田 博	京大大学生存圏研究所 教授
委員	大澤 政彦	国土交通省関東地方整備局長野営繕事務所 保全指導・監督官
委員	下平 文隆	一般社団法人長野県建築士会 副会長
委員	小河 節郎	一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長
委員	新井 優	公益社団法人日本建築家協会長野県クラブ 事業検討ワーキンググループ委員長
委員	田村 茂智	信州建築構造協会 副会長
委員	田中 一興	長野県木材協同組合連合会 木造住宅部会部会長

# “信州の木” 建築賞概要

## 目的

長野県の森林は、資源としての本格的な利用の段階を迎えており、地球温暖化の防止や循環型社会の形成ため、木材を建築物に積極的に活用することが求められています。

“信州の木”建築賞は、優秀な建築物を表彰することにより、木造建築に関わる技術者等のスキルアップを図るとともに、広く県民に木造建築の魅力を発信し、その普及に寄与することを目的としています。

## 主催

長野県

## 後援

一般社団法人長野県建築士会、  
一般社団法人長野県建築士事務所協会、  
公益社団法人日本建築家協会長野県クラブ、信州建築構造協会、  
長野県木材協同組合連合会

## 募集対象

**建設地** 長野県内  
**構造** 木造建築物（主要構造部である柱、梁及び桁等の全てに木材を利用したもの）及び木質化等を図ったその他の構造（主要構造部である柱、梁及び桁等に木材を多用したもの、並びに主要構造部以外の仕上げ材等に木材を使用したもの）  
**規模** 延べ面積500平方メートル以上  
**用途** 用途は問いません  
**建築時期** 平成22年6月1日から平成28年5月31日までに竣工・完成したもの

## 審査基準

- 県産木材を積極的に活用し、その特徴や良さを活かしたものであること
- 木材の利活用が図られ、林業、木材産業の振興に寄与するものであること
- 地域の事業者や技能者が主体となり、木材の建築技術の継承や地場産業の発展に寄与しているものであること
- 木造建築物の構造技術、防火性能向上に創意工夫を凝らしたものであること
- デザインに優れ、地域の文化や風土、まちなみや周辺の景観と調和がとれているものであること
- 環境負荷の低減に配慮するなど、独自の取組や提案がなされているものであること

# 【応募作品一覧】

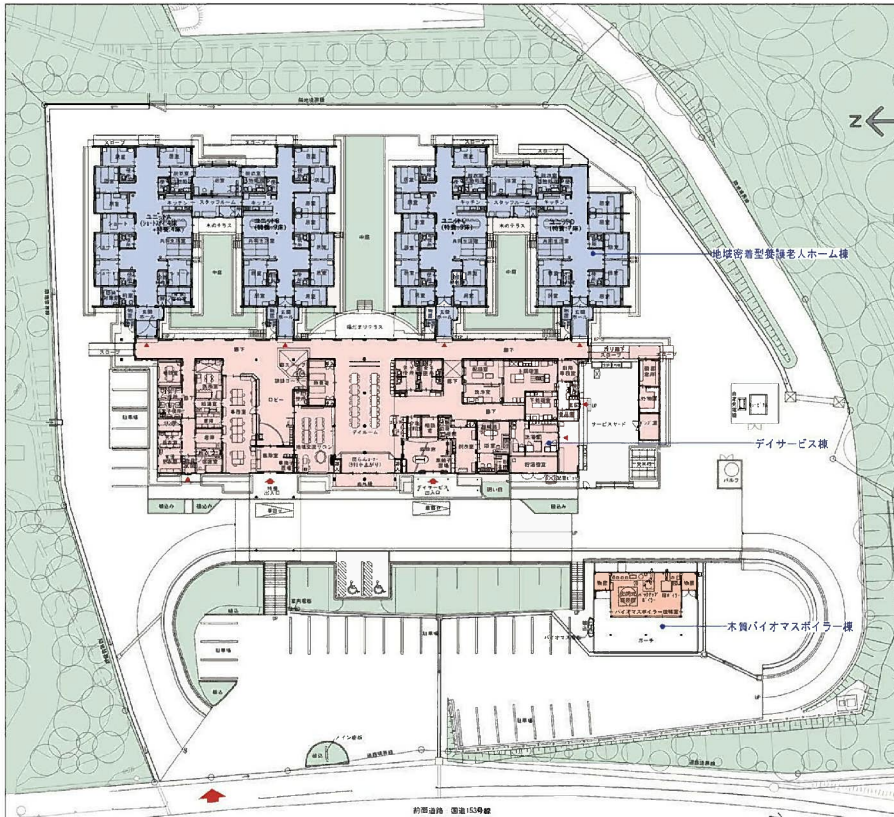
作品分類	応募者氏名 (延べ面積昇順)	作品の概要					
		建物名称	所在地	用途	竣工年月	階数	延べ面積
木造	(有)みずゞ設計	KOA七久里の社 食堂・研修棟	下伊那郡阿智村	社員食堂・研修室	H24.8月	1F	614m <sup>2</sup>
	(株)アーキディアック	あがた児童センター	松本市	児童館	H26.12月	2F	668m <sup>2</sup>
	(有)幸建築設計	須坂市立 高甫保育園	須坂市	保育所	H25.3月	1F	933m <sup>2</sup>
	(株)宮本忠長建築設計事務所	信州大学おひさま保育園	松本市	保育園	H25.12月	1F	1,000m <sup>2</sup>
	社会福祉法人望月悠玄福祉会	あたり前の暮らしサロントセンター	佐久市	デイサービス、ショートステイ、コミュニティフェ	H28.5月	2F	1,098m <sup>2</sup>
	(株)竹村建築設計事務所	千曲市立 上山田保育園	千曲市	保育所	H26.9月	1F	1,158m <sup>2</sup>
	(株)第一測量設計コンサルtant	須坂市立 井上保育園	須坂市	保育所	H27.3月	1F	1,167m <sup>2</sup>
	R-works	神科第一保育園	上田市	保育園	H27.3月	1F	1,336m <sup>2</sup>
	朝日村	あさひ保育園	東筑摩郡朝日村	保育園	H27.3月	1F	1,518m <sup>2</sup>
	(株)東浜設計	立科町 保育所	北佐久郡立科町	保育園	H25.2月	1F	1,629m <sup>2</sup>
	(株)城取建築設計事務所	名子中央保育園	下伊那郡松川町	保育園	H26.4月	1F	1,972m <sup>2</sup>
	(株)宮本忠長建築設計事務所	かわかみ保育園 子育て支援センター「きらきら」	南佐久郡川上村	保育所	H28.2月	1F	2,006m <sup>2</sup>
	(株)城取建築設計事務所	児童養護施設「たかずやの里」	伊那市	児童福祉施設	H26.8月	1F	2,096m <sup>2</sup>
	(有)みずゞ設計	根羽村高齢者福祉施設 ねばねの里「なごみ」	下伊那郡根羽村	高齢者福祉施設	H26.12月	1F	2,304m <sup>2</sup>
(株)城取建築設計事務所	生協総合ケアセンター いいじま	上伊那郡飯島町	複合福祉施設	H28.3月	1F	3,393m <sup>2</sup>	
混構造	岡江・清澤特定設計企業体	安曇野市立北穂高保育園	安曇野市	保育園	H24.9月	1F	1,103m <sup>2</sup>
	(株)エーシーエ設計	長和町ながと保育園	小県郡長和町	保育園	H26.10月	1F	1,658m <sup>2</sup>
	長野市	門前回廊	長野市	屋外通路	H27.3月	-	1,975m <sup>2</sup>
	(株)宮本忠長建築設計事務所	軽井沢発地市庭	北佐久郡軽井沢町	農産物等直売施設	H28.3月	1F	2,044m <sup>2</sup>
	(株)第一設計	長和町新庁舎	小県郡長和町	庁舎	H27.12月	2F	3,461m <sup>2</sup>
木質内装	(株)柳澤孝彦+TAK建築研究所	上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館 (サントミュージゼ)	上田市	劇場	H26.9月	5F 1B	17,635m <sup>2</sup>
	内藤・小河原・尾日向設計共同企業体	安曇野市庁舎	安曇野市	市役所	H27.1月	4F B1	21,470m <sup>2</sup>

※ 混構造とは、主要構造部である柱、梁等を木造と併せ、鉄筋コンクリート等を用いた構造です。  
※ 木質内装とは、床、壁及び天井等の内装に木材を使用しているものです。





## 根羽村高齢者福祉施設 ねばねの里「なごみ」



### ■ 建築計画

- ①国道側には動的なデイサービス部門を、奥に静かな特養部門を配置し、それぞれの活動に適した計画とした。
- ②室内は、中庭に面することや吹抜けをつくることや、特養棟は「越屋根システム」を設け、採光・通風に配慮し、南北差の少ない居心地の良い居住環境を目指した。
- ③地域交流室や薪ストーブ、畳コーナー、対面キッチンなどで交流できる環境づくりや、地域を感じられる家庭的な雰囲気より、村で最後まで「自分の家」「自分の地域」と思って安心して過ごせるような暖かみのある施設づくりを心掛けました。
- ④自然エネルギーやバイオマスエネルギーを積極的に活用し、「持続可能な村づくり」として環境立村のきっかけを提言。



東側全景

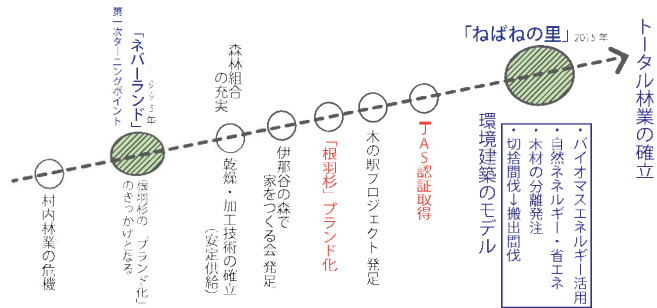


特養・共同生活室



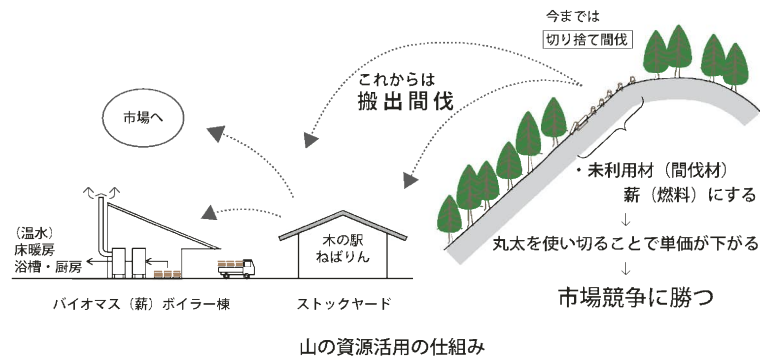
デイサービス・デイホール

## 1 根羽村のトータル林業への歩みを進める



持続的に村と関わり、相互に連携をとることでステップアップをしてきました。

## 2 山を循環させる仕組みを整えていく(木質バイオマスの利用)



今までは、山に切り捨てて放置してきた間伐の未利用材を「搬出間伐」して活用します。切り捨て間伐を搬出間伐に切り替えることができれば日本中の山が元気に生き返り環境への貢献となります。伐採した後は、また植林することでその分がCO<sub>2</sub>削減量としてカウントされます。

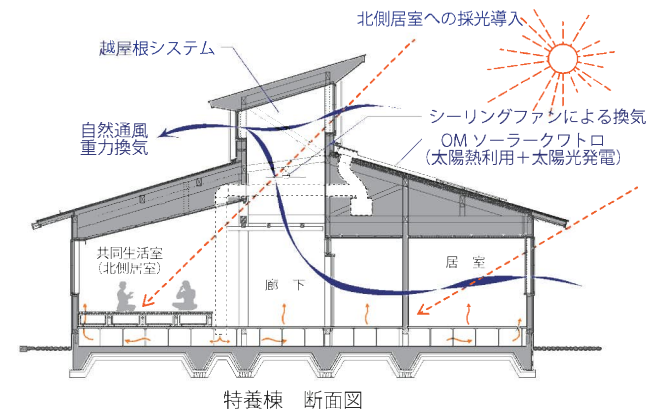


軒を深くし、冬の雪対策や作業性に配慮した機能的なボイラー棟。シャッターには山の木の物語を描いたイラストが利用者たちを楽しませます。オーストリア KOB 社製の薪ボイラーとバックアップボイラー（ガス）で施設の熱源を賄います。地域の未利用材を消費し、森を美しく持続させる一端を担います。

## 3 適材適所に木をつかう

- 建物のほとんどを根羽杉を中心に、一部ヒノキ、カラマツ、構造材から造作材家具として適材適所に村内産材で賄った。
- 県産材木材使用量は、合板や床暖房対応の床材以外の部分に **486.76m<sup>3</sup>使用**。  
**全体木材使用量 585.76m<sup>3</sup>の83.10%**を占める。
- 準耐火建築物（メンブレン工法）のため施設建築にありがちな単調で無機質にならないよう「燃えしろ設計」などにより木部を現し、安全性にも配慮した暖か味を感じる豊かな施設建築をめざした。

## 4 建築内部の微気候をつくり、整える



越屋根システムは、建物内部の採光、通風、換気に配慮し、室内環境を快適にするとともに、OMダクトやスプリンクラーなどの設備配管スペースとしている。



敷地上、不利な北側居室は中央廊下の吹き抜けから木の格子を通してやわらかな自然光を取り入れ明るく快適な住環境とした。



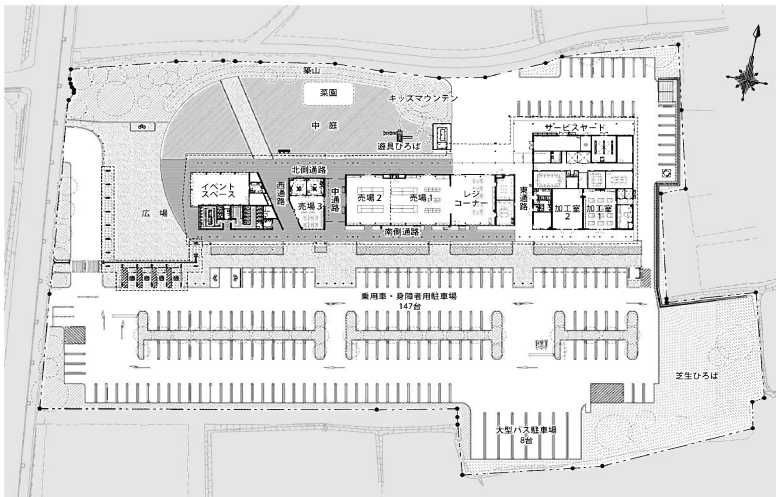


# 軽井沢発地市庭



かるいざわほっちいちば  
**軽井沢発地市庭**

建築主 軽井沢町  
 設計監理 (株)宮本忠長建築設計事務所  
 施工 新津・柳沢特定建設工事共同企業体



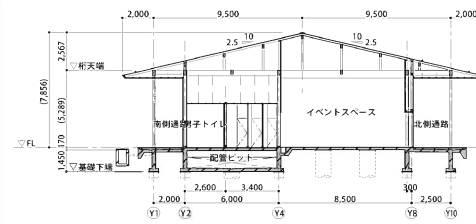
配置平面図 1/1500



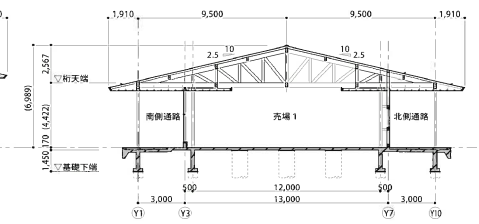
南立面図 1/800



断面図 1/800



断面詳細図(イベントスペース) 1/400

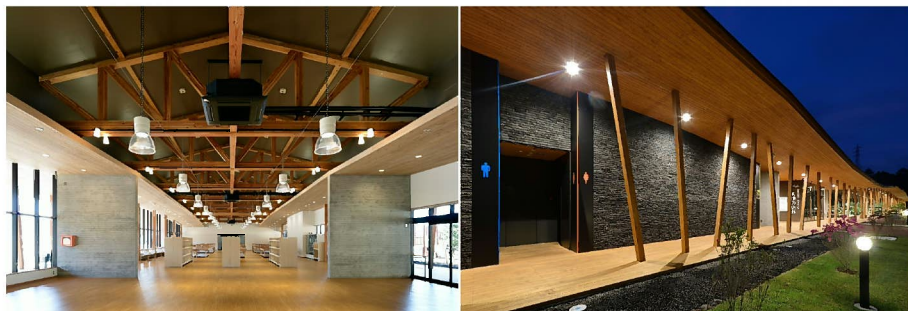


断面詳細図(売場) 1/400

## ダイナミックな構造材

—木材利用

建物構造は地域産唐松の大断面集成材と杉板型枠の打放しコンクリート壁で構成している。約 460 m<sup>2</sup>の農産物売場はトラス構造の表しとし、躍動的かつ開放的な店舗空間とした。同様にイベントスペースも構造材表しとした。外壁・軒天には構造材と同じく地域産材の唐松羽目板張りとし、軽井沢らしい外装材を使用した。県産木材の使用量は約 220 m<sup>3</sup>である。



## 風景に呼応する

—デザイン・景観

建物の屋根は、敷地周辺の穏やかな山並みと調和し、また東信地域の象徴的な風景となっている浅間山と呼応するよう、うねりのある棟・軒先ラインを形成した。建物北側と南側に設けた斜めのランダムな列柱は、避暑地軽井沢の森をイメージし、屋根と一体的に特徴的な外観を形成した。また仕上材には木材の他、杉板型枠RC打放しや浅間石張りなどを用い、軽井沢らしさを演出した。



## 構造・仕上・型枠職人の技

—建築技術継承

主要構造材はカラマツ集成材、垂木・雲筋交いなどはKD材を使用し、製作・現場組立てを県内の斎藤木材工業で行なった。構造材だけでなく、仕上げ材にも木材を多用して大工工事が多い設計とした。建物本体と屋根付き通路のRC壁は杉板型枠とし、型枠大工の技術力を発揮できる仕上げとした。



## 深い軒・通風・太陽光発電

—環境負荷低減

本施設は、春から秋にかけての来客・施設利用頻度が高くなるという特質から、夏場の熱負荷対策として、エリアごとに外部通路で分節し、また深い軒先を設け、開口部を南北に確保することで、施設全体に通風の確保や直射日光が室内に差し込みにくい設計とした。また屋根面の一部に太陽光発電設備を設けた。







# 上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館（サントミュージゼ）

## ■施設概要

1000年の歴史と文化を育んできた東信濃上田市を流れる千曲川のほとりに建設された劇場と美術館合築の文化施設です。大きな敷地の中を伸びやかに円周300mの大回廊が大地を巡り芝生広場と建築物の間を貫き、全ての施設の入口に直結する配置構成が地域性を際立たせた特長のある新しい環境デザインです。大半の施設を1階に集約配置したこの低層建築は人に優しい水平動線を基本としたバリアフリーに徹し、随所で大地の自然と接する安全で心地良い施設環境として、利用者の寄り付き易さ見透しの良い開放性と共に、施設利用への親近性を高めています。

## ■施設の特徴

上田市は歴史・文化・自然の三つの文脈が織り成す特徴ある風土を築いてきました。この豊かな風土を世代を超えて継承する為にも、千年の歴史が築いてきた地域の風土、基調景観を舞台として、四季折々の豊かな自然との共生を図る計画を目指しました。

### 〈地産地消〉

素材の構成は極力自然素材を基本と考え、外装にはコンクリート打ち放しと焼杉板、内装は「上田の森」をテーマに現地産唐松加工材を徹底使用しています。現地産間伐唐松約3000本が加工され地球環境に優しい施設としています。

### 〈クラスターシステム〉

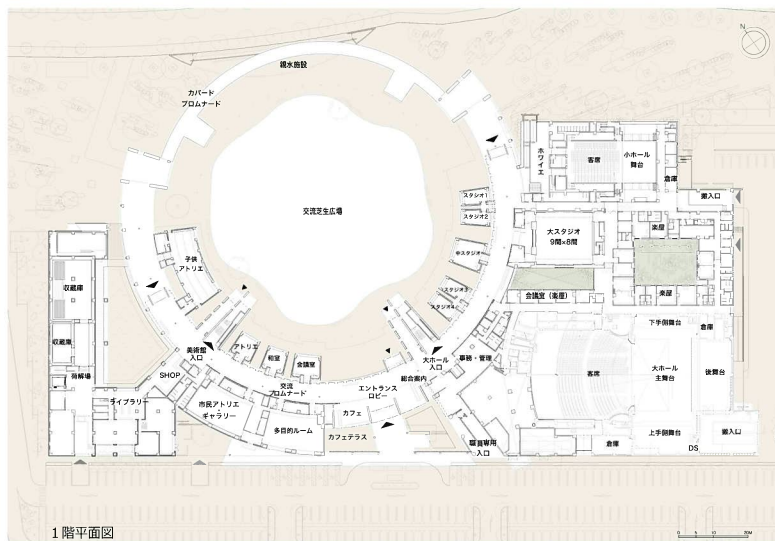
配置構成は円環の交流プロムナードに全ての機能空間の出入口が直結するクラスターシステムです。その寄り付き易さは開放性のある構成による見通しの良さと共に施設利用を身近にする親近性を高めています。劇場及美術館の主要機能空間は千曲川に極力添う配置とし、駐車場と主出入口を直結させるとともに施設の随所に千曲川を身近にする眺望を獲得しています。

### 〈視覚交流〉

配置計画がもたらすもう一つの特長に多角的な視覚交流があります。施設の随所から各機能空間相互の人々の動きの中に、上田の山並みを見渡せる開放的な空間構成は、上田の風土の中に時空を共有する人と人、そして人と上田を結ぶ心の絆を生みます。

## 上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館

Ueda Performing Arts & Cultural Center / Ueda City Museum of Art



施主 上田市長 母容剛一  
設計・監理 柳澤孝彦+TAK建築研究所・梓設計共同企業体  
施工 鹿島・宮下特定建設工事共同企業体

### ■市内産間伐材の利用

大ホール内装仕上げ材 : カラマツ無垢材(準不燃)  
小ホール内装仕上げ材 : カラマツ無垢材(準不燃)  
大スタジオ内装仕上げ材 : カラマツ無垢材(準不燃)  
交流プロムナード内装仕上げ材(ルーバー)  
: カラマツ集成材  
子供アトリエ天井仕上げ材(ルーバー)  
: カラマツ集成材  
外装仕上げ材 : 焼杉(防腐剤含浸)

劇場内においては、内装制限により準不燃材料仕様としており、不燃処理が必要な木材は加圧減圧法とし、国産認定材を使用しています。白化防止のためレスキューコートを6面施し、メンテナンスに対しても考慮した仕様としています。

©スタジオムライ





### 〈円環の交流プロムナード〉

円環のメインロードは「交流プロムナード」と名付けて、多様な機能空間への動線のスパインであると共に、交流ロビーの機能をも合せ持つ長大空間で、あえて直線的な見通しをさせて、進む程に異なる視野の展開に意識下の期待感や発見を伴う祝祭性を帯びた広場が設計の意図の一つであります。

また主要機能がオフの際もフリーに展示会や集会時にはミニコンサートなどの公共性を発揮する場でもあります。

円環という幾何学形態は隣接する大型商業施設に対し、クローズドな形態で呼応を計るうとの考えから発想したものです。

そして何よりもこの交流プロムナードは全ての機能空間を有機的に結接する空間体として、この施設の重要なテーマである劇場と美術館のシナジー効果を充分なものにする空間発揮を期待しています。

大通りに面して各種の機能空間があたかも軒を連ねた構図は、「街並みの抽象化」が狙いでもあり、本来の街並みの記憶の覚醒が秘められています。人々の行き交う動線機能を超えて、人々の交流・交感の場・出会いの場となることを期待するものです。

### 〈大ホール〉

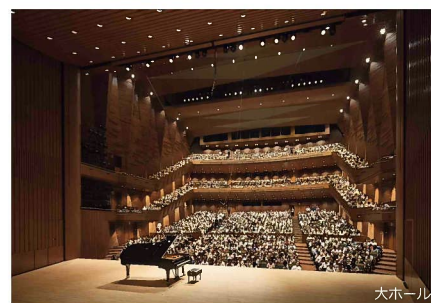
大ホールは固定席最大1650人収容の当該施設の核ともいえる多目的ホールで、舞台はプロセニウム形式で、音響反射板装置、オーケストラピット、各種吊物による多様な舞台構成により、オーケストラ、コンサート、オペラ、ミュージカル、演劇から古典芸能など、多様な舞台芸術の拠点。客席は1階客席を2層のバルコニー席が三方から舞台を囲む構成で、観客と演者の一体感を高める空間デザインに意を傾けています。

ホールの内装は上田産の唐松無垢材に準不燃対応の仕様を施した木質素材に覆い尽くされた重厚感と親密感を漂わせて豊かな音場を築いて人々の心を震わせます。

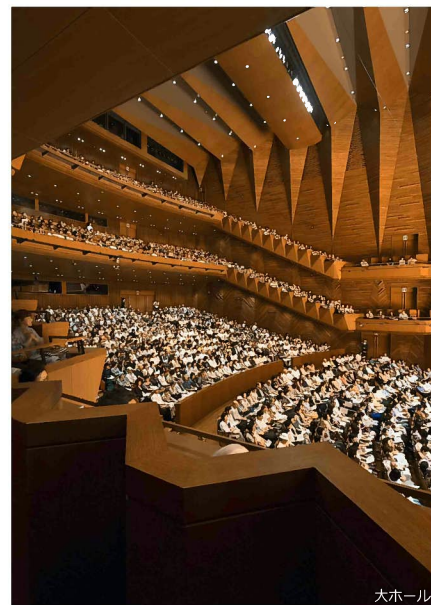
大ホール両側の壁には自然光が差し込む6ヶ所のハイサイドライトが仕込まれていて、開放時には暗いホール空間に数条の自然光が非日常の異界を照らしだします。



交流プロムナード



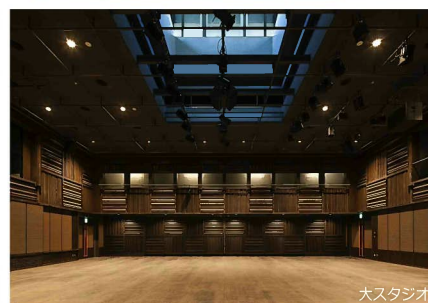
大ホール



大ホール



小ホール



大スタジオ



美術館企画展示室



子どもアトリエ

### 〈小ホール〉

小ホールは固定席320席（最大372人収容）のワンボックス型の多目的ホール。

舞台と平土間の三方をバルコニー席が囲む特長ある構成で舞台と客席が極めて身近な関係をつくる多機能型ホール。天井には6本の固定ブリッジが並ぶ。

### 〈大スタジオ〉

大スタジオは大ホールのアクティングエリアと同様の面積を持つリハーサルルームをベース機能とするも、様々な舞台芸術の練習や発表にも利用可能な舞台設備を備えている。またバレエ練習用の鏡なども木質壁面を構成する一部の可動壁の裏に仕込まれている。また同様の可動壁は中庭の緑の眺望を切り取る開口部の引戸機能を果たしている。

大スタジオも大ホール同様唐松無垢材準不燃適用仕様の木質で覆われている。

### 〈美術館〉

美術館は2階に常設及び企画展示室が配置されている。展示室は作品特性に配慮した照明方式や、使いやすい形状規模の常設展示室と、ハイサイドライトを備えた大壁面と共に、大型展示も可能にするフレキシブルな可変展示システムを導入した企画展示室が多様な美術作品展示を可能にしている。

1階に配置した収蔵庫を中心とするバックヤードは文化庁の「公開承認施設基準」を十分に満たす保存環境制御システムが導入されている。また、鑑賞した美術・芸術作品を深く学べるアートライブラリーやミュージアムショップがロビーコーナーを形成している。

美術館は1階の子どもアトリエを中心に隣接する屋外広場を子どもお絵かき広場として、子どもに対する美術育成を活動の骨子の一環としている。

### 〈創作工房群〉

交流芝生広場に突出して並ぶ創作工房は音楽用のスタジオ、会議室、和室、アトリエ、子どもアトリエなど、市民が日常的に利用できる小部屋の並びで、いずれも特定した用途以外にも多様な活動に対応可能な互換性を備えている。これらは交流芝生広場に向けた前面ガラスの開口が広場との視覚交流を促している。

©スタジオムライ





# KOA七久里の社 食堂・研修棟



ビオトープ

「工場全体がビオトープ」という発想で、「人工物」を緑豊かな「自然」で包む。竣工当時より緑が濃くなり、昆虫、鳥、水生生物などの多様な生物の生態系保全の場となっている。



「駒場の宿」の継承

地域に残る宿場町「駒場の宿」の街道の面影をとどめた。左側が生産棟で右側が食堂・研修棟。街道沿いの水路は、風車を使い屋根に降った雨水を循環させている。



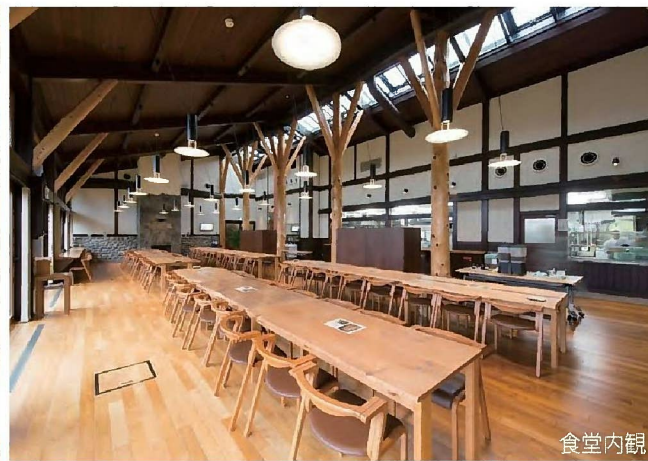
妻面外観

南信州の伝統建築様式である「本棟づくり」をモチーフにした外観。左側の風車は水路を循環させる動力となり、手前の太陽光発電パネルはビオトープの池の水を循環させる装置である。工場に潤いを与え、また、虫や鳥などの生態系を保全する。



食堂内観

食堂内部。林立する丸太の柱は根羽村産桧材。床はニセアカシアの緑甲板棟木等各所に民家の古材を使用。OMソーラー立ち下がりダクトは見学者用温風体験装置。



食堂内観

テーブルは一つとして同じものがないムク材。利用者の好みで日替わりで楽しんでいる。食卓上には、樹種の説明カードが置かれている。休み時間に癒され、リフレッシュする貴重な空間。





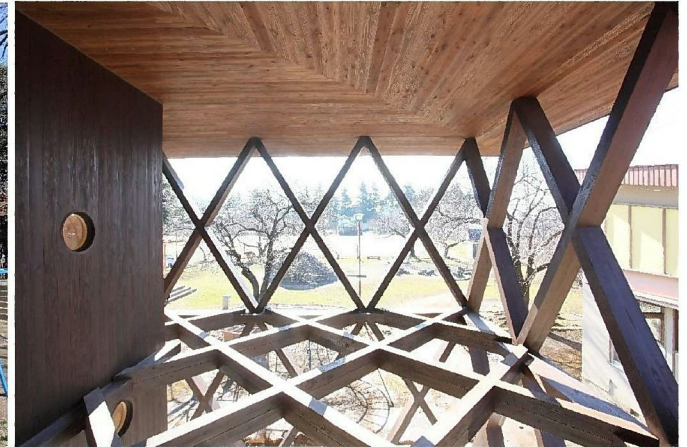
# あがた児童センター



■北側外観  
既存の桜の木を残して建物を配置し、道路側に面して2階に大な開部を設け、内部の様子が伺えるデザインとしました。



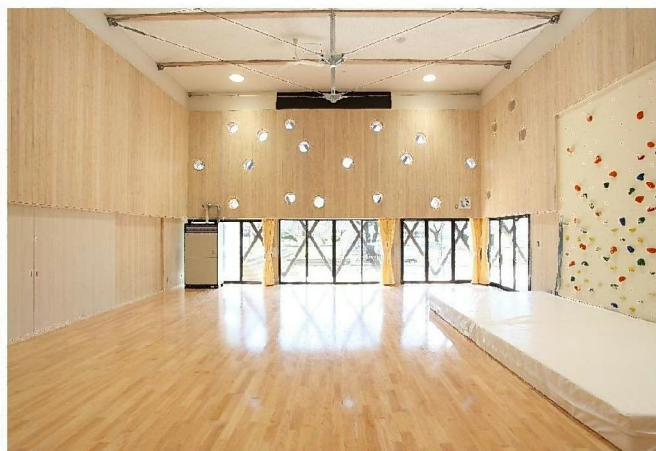
■南側外観  
格子状の壁を設け、木の力強さと特徴のある外観をつくっています。また、この部分はスクリーンとして、公園と建物を緩やかに結びつけています。



■縁側内観  
斜め格子の柱と梁で構成された縁側のような中間領域を設けました。また、外壁や軒天にも県産の杉板を貼り、木造らしい表情をつくっています。



■2階クラブ室内観  
外壁の杉板が内部空間につながります。また、梁を表して用いて、木造建築らしさを表しています。また、作り付けの家具は無垢材でつくっています。



■1階遊戯室内観  
内壁は佐久産のからまつ羽目板、床は安曇野産のあかまつフローリングを用いています。また、梁は張弦梁によりロングスパンに対応しています。



■2階交流スペース内観  
各部屋は建具で仕切られ、オープンにすると全体がワンルームとしてフレキシブルに使用できます。





# 須坂市立高甫保育園

杉材間伐・須坂市有林の磨松



杉磨き丸太皮剥作業・ラミナ材の乾燥



遊戯室 大梁・ステージ柱・腰壁



保育室 集成梁・腰壁・造作材



テラス 杉磨き丸太



木造躯体の状況





# 信州大学おひさま保育園



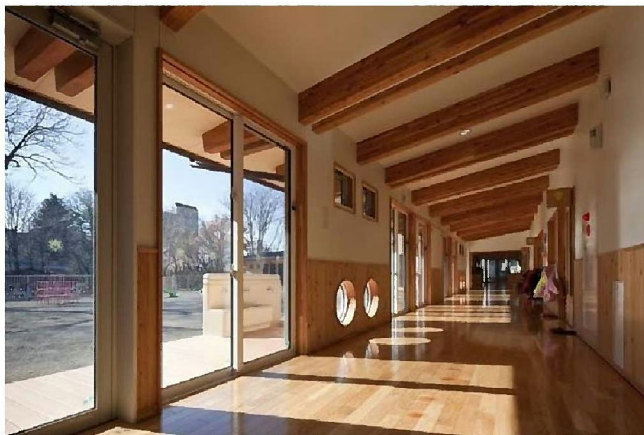
南東外観



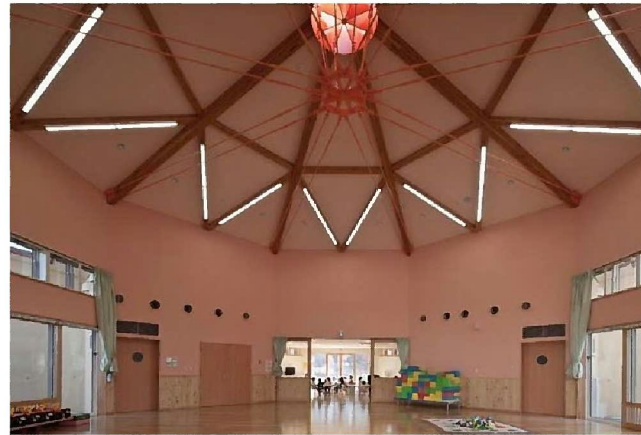
南外観



東外観



廊下



遊戯室



トップライト





# あたり前の暮らしサポートセンター



南東より見る。集落の町並みに溶け込むデザイン。



入口より中庭を見る。青々とした畑が屋外の気持ちよさを感じさせ、収穫したり梅干しを干したりしたい気持ちを引き出し、アクティビティを誘発する。



1階サービスの機能訓練室。燃えしる設計の柱にて適度なスケールの空間に分節することで、住宅に近い感覚で行動できるように計画した。



2階ショートステイ機能訓練コーナー。シンプルな仕上がりやすらぎを、唐松フローリングがあたたかみを感じさせる。壁と床の対比の仕上がり気が気持ちの重心を下げさせ、より落ち着き感を与えている。



いきいき工房。撮影当日は体操教室が実施され、地域の方が参加。二段梁のトラス構造にすることで、無柱空間を形成。



コミュニティカフェ。色・材質・照度の対比が木質の素材感、構造フレームの構成を感じやすく演出した。